

風土記の丘の花だより²³⁶

今、そしてこれから見られる植物(2024年5月18日)

一雨ごとに山の緑が濃くなっていくような気がします。雨の翌日、白い花を咲かせるガマズミ、ウツギ、エゴノキの下は落花で、まるで雪が積もったようでした。古代米の田んぼにも水が張られています。早いですね。もうそんな季節になりました。



センダンの花が青空に映えます。薄紫の花が枝先にたくさんかたまって咲いています。きれいな花ですが、山上憶良の「妹(いも)が見し あふちの花は 散りぬべし 吾が泣く涙 いまだひなくに」という悲しい歌を思い出して、何となくはかない花に見えてしまいます。歌の中にある「あふち」は「おおち」と発音して、センダンのことです。万葉植物園や修復古墳周辺に大きな木がたくさん植えられています。葉は羽状複葉で細かく分かれています。



ネジキの花が咲いています。透明感のある白色で、釣り鐘状の小さな花をたくさん付けます。ネジキは漢字では「捻木」と書き、樹皮が捻ったように成長するのでその名があります。ツツジの仲間ですが、この時期に咲くツツジやサツキの花とはずいぶん形が違います。どちらかということ、ドウダンツツジなどに似ていますね。春、新梢が真っ赤でとてもきれいです。さらに秋には紅葉し、野山を彩ります。ただ、有毒植物ですので、間違っても口にしないでください。まさか、そんなことはないと思いますけどね・・・。



2枚のカエデの葉を並べました。カエデの仲間は秋にきれいに紅葉し、私たちの目を楽しませてくれます。また今の季節は新緑がとても鮮やかで「青もみじ」などと呼ばれます。万葉植物園の一番上ではその青もみじがとてもきれいです。そこで、左の2枚の葉を見比べてください。違いがお分かりですか？左がここには1本しかないイタヤカエデ、右が一般的なイロハカエデです。イタヤカエデには、大きな名札は付いていますが、一度探してみてください。



旧小早川家の庭でユキノシタの花が咲いています。タンポポやサクラなどと違い、左右対称の花で、上半分と下半分ではずいぶん違いますね。古くから食用や薬用として用いられ、人々との関わりが深い植物で、庭によく植えられてきました。山の中では日陰のジメジメした所に多く自生しています。風土記の丘の西にある金竜大神の参道沿いで大きな群落を見た記憶があります。(最近、行っていませんが・・・)

さて、いつもお読みいただいている花だよりですが、次回

237号は25日土曜日ではなく、週が明けて29日水曜日になります。ご了承ください。松下